



こども病院前の川に菜の花が咲き始めています。きれいです。春です。新たな旅立ちの季節です。辛い冬ももう終わり。夢と希望の季節がやってきました。

懸案の「北5病棟に保育士を設置してほしい」というお願いですが、呼びかけに対して何人かの方から県議員をご紹介いただきました。ありがとうございます。その中で焼津市の服部さんが八木県議を紹介してくださり、先日、県の病院局へ一緒に陳情に伺いました。八木県議も現状に理解を示してくださり、一緒に保育士の設置を県に働きかけてくれました。また、他の県議にも声をかけて頂き設置の運動を約束してくださいました。服部さん、八木県議に感謝いたします。進展を期待したいと思います。

<第105回 ほほえみの会>

初参加の方3人と西尾先生を含め11人の参加でした

▽ 3歳5ヶ月男の子。急性リンパ性白血病。この春から保育園に行く予定だった。風邪だと思ってかかった病院の血液検査で病気がわかり、こども病院へ。目の前真っ暗。先生が何を言ったか何も覚えていない。胸が張り裂ける思いとはこのことか。なぜうちの子が。神様を恨む。

▽ 1歳2ヶ月女の子。神経芽細胞腫。おとといこども病院へ入院。2月から風邪で熱があると思っていた。血液検査で炎症反応があったため総合病院でCTとエコーを撮ったところ腫瘍がわかる。骨転移も認められ、あす生検をして治療の方法を決める。本人は元気な様子だが、父親が動揺しており母親がしっかりしなければと思う。

▽ 小学4年生男の子。悪性リンパ腫。野球をやっている元気な子だった。4ヶ月ほど前から腹痛。先月末に下痢、嘔吐があって総合病院にかかり、しこりが見つかったため手術。そこで腫瘍が見つかる。悪性とわかり血の気が引く思い。でも本人は元気で前向き。学校でもクラスの皆の前で病名を言い、俺はハゲになる。子ガンだから治る。と自ら発表した。親は2人で泣いていたが子供の姿を見ていると泣けない。子供に助けられる。

▽ 病院内の訪問学級の斎藤先生も参加してくださいました。病気の説明を聞くにはなるべく母親と父親一緒に聞いてほしいという話がありました。人から人へ話が伝わると誤って伝わることも多いとのこと。父親と母親では考え方も違う。県立短大の金城先生からも経験談がありました。

もう10年以上前の話。病気の話を両親にした時、父親はどうせ治らない病気ならば治療をしないで、楽にさせたい。父親の支配力の強い家庭で医療者もそう考え始めた。その時、母親が猛然と反発、結局治療を続けることにした。その後その子は回復し今も元気で暮らしている。あの時、早まった判断をしないでよかった。

今は病院に倫理委があり治療をやめることはないということですが子供の生命力は計り知れないものがあるということです。

また退院後、もとの学校へ復学するケースが増えていますが、幼稚園や小学校、中学校などでどう受け入れるか、難しい問題もあるようです。小児ガンの場合はガイドラインも出来ています。必要な方は御連絡下さい。今後、学校の先生への啓蒙も必要だと思われます。

次回は 4月 11日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>